

大聖院：大日堂

現在弥山にある建物の大半は比較的新しく、山が 1991 年の破壊的な台風に襲われたのちに再建されたものです。しかしながら、大日堂の起源は戦国武将の毛利輝元 (1553-1625 年) が建立を命じた 1599 年まで遡ります。お堂のある場所は、大聖院の開山にして同院が属する真言宗の開祖でもある伝説的な僧侶の空海 (774-835 年) に所縁があり、空海が 806 年に弥山を訪れたときには修行に励む場所の一つだったと伝えられています。大日堂は 250 年間にわたって山で最も重要な建造物でした。1868 年までは、宮島にいる全ての僧侶たちが毎年最初の七日間にこのお堂へと集まって天皇と国の繁栄を祈願していました。

このお堂は 3 体の仏を祀っています。中央に立っているのは仏教の五大明王の 1 人で、大聖院の本尊でもある不動明王像です。この恐ろしい形相で忠実な信徒たちを守る仏の両脇には宇宙の最高仏である 2 体の大日如来像が立っています。この 2 体は密教的宇宙観における 2 つの中心的な世界、すなわち不変の知恵の領域である「金剛界」と慈悲の世界である「胎蔵界」を表現しています。仏像の前の床には清めの護摩焚きを行うための低い台が置かれています。護摩焚きは真言密教において重要な役割を果たす儀式で、心を清めて負の思考と邪気を取り除くと信じられています。